

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	江田島市立江田島小学校		
学校長氏名	岡田 學	栄養教諭氏名	石丸 美千代
職員数	32名	児童・生徒数	261名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は、「食べる楽しさや美しさを実感させる。」を短期経営目標に掲げて教職員全体で食育に取り組んでいる。食べる楽しさを実感させるために給食時間における指導や自分の食事量を考えて給食を完食することができるように取り組んでいる。また、食べる美しさを実感させるために食事のマナーについて取り組んでいる。しかし、食器類を正しく配置して、食器を持って食べることがまだできていないのが現状である。そして、朝ごはんについては、いつも欠食する児童はいないが、食事内容に課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ① 自分の食事量を考えて、配られた給食を完食することができる児童の割合を95%以上にする。
- ② よい食事マナーでなかよく、楽しく食事をするができる。特に正しく食器類を配置し、食器を持って食べることができる児童の割合を100%に近づける。
- ③ 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんをほぼ毎日食べることができる児童の割合を60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 自分の食事量を考えて、給食を完食しよう。

給食は児童が楽しみにしていることの1つであるが、少食や偏食傾向の児童にとっては不安に感じていることもある。そこで本校では、均一に配られた給食を児童一人ひとりが自分の食事量を考えて、食事の前に担任の指導のもとで量の加減を行い、給食を完食することで食べる楽しさを実感できるようにしている。

【取組2】（テーマ） よい食事マナーで、なかよく、楽しく食べよう。

本校では、給食時間を中心に食事マナーの指導に取り組んでいる。指導の内容は、食事マナー目標に沿って、栄養教諭が各クラスを訪問し、具体的な教材を使用して指導を行っている。また、年度初めに給食指導計画をもとに全教職員で江田島小学校の給食時間の進め方について確認して取り組んでいる。そして、なかよく、楽しく食べる取組として、各クラスの実態にもよるが、グループになって担任もその中で一緒に給食を食べたり、学期に1回「ふれあい給食」を実施して異学年での食事を行ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫をしている。

【取組3】(テーマ) 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べよう。

本校では、生活アンケートで朝ごはんの欠食や食事内容（主食・主菜・副菜が揃っているか。）について問い、その結果から「いつも食べない児童」はいないが、食事内容に課題があることがわかり、朝ごはんの食事内容の充実「主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べて、元気に登校！」をキャッチフレーズに取り組んでいる。

- ・収穫した野菜等を使って朝ごはんのおかずを作って食べる取組。

学校園で栽培している野菜等を収穫して持ち帰り、朝ごはんのおかずをお家の人が作ったり、自分で作ったりして食べることを通して、朝ごはんの食事内容の充実を図る機会を増やす。

- ・朝ごはんの食事内容の充実を図る食に関する指導。（5年生）

生活アンケートの結果を用いて、毎日必ず主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんが食べられる方法を見つける。

- ・保健給食委員会の活動。

朝ごはんにおすすめのレシピを児童が考え、試作試食をして江小まつりで保護者に紹介し、その後、全校児童にレシピを配付した。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

今年度も夏季休業中に親子料理教室や職員対象の食育研修で「ひろしま給食」に取り組み、「広報えたじま」（10. 11月号）へのレシピ掲載やスーパーマーケットでレシピを配付して市民への啓発を行った。給食については今年度の「ひろしま給食」を始め、これまでの料理も積極的に取り入れ、学校給食週間には、「ひろしま給食」の日を設けた。また、地域試食会で「豚肉と広島食材のいため物」を提供し、「ひろしま給食」の取組について紹介した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・取組1については、児童は自分で決めた食事量の給食を残さず食べることができるようになり、その結果、クラス全体の残食量も減少することができた。また、担任も児童一人ひとりの食事量や偏食の傾向を把握することができ、日々の給食指導に役立っている。

完食率（毎学期、連続5日間を調査）

1回目	93%	2回目	96%	3回目	98%
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・取組2については、給食指導計画をもとに全教職員で取り組んだことで、食事のあいさつが定着し、丁寧で心を込めた食事のあいさつが全てのクラスできるようになった。また、担任が児童と一緒に給食を食べたり、異学年で食べたりすることを通して、楽しみながら食事をする児童の様子が多く見られた。
- ・取組3については、児童自らが収穫した食材を用いた朝ごはんのおかずを作って食べる機会を増やすことができた。また、生活アンケートの結果を用いた食に関する指導を実施したことで、児童が積極的に朝ごはんの食事内容の充実に関わる手立てを見つけることができた。

【課題】

- ・取組1については、低学年では偏食傾向の児童は担任の声かけ等により少しずつ食べられるようになってきているが、学年が上がるにつれ改善が難しくなっているのが現状である。また、本校は児童の転入が多く、転入してきた児童の食に対する関心に差があり、特に偏食傾向の改善が難しい。
- ・取組2については、正しい食器類の置き方の掲示物や担任、栄養教諭の声かけ等によって食事マナーの改善は見られるが定着できていないのが現状である。また、クラスによって準備に時間がかかり、慌ただしく食事をしている様子が見られ、楽しみながら食事をすることができていない。
- ・取組3については、学校側が取組を進めることで一時的に食事内容の充実が図れるが継続が難しい。また、2回目の生活アンケートの結果が1回目より全体的に数値が低下していた。理由として、就寝時刻や起床時刻が遅くなっていたことで、朝ごはんを食べる時間が無かったり、食べても主食のみという児童が増加したりした結果と考えられる。

主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べているか。	7月	2月	増減
毎日食べている	33.8%	32.8%	▲1.0%
週に5～6日食べている	21.2%	17.0%	▲4.2%
週に2～4日食べている	21.7%	25.7%	4.0%
ほとんど食べていない	23.3%	24.5%	1.2%

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・偏食傾向は、学年が上がるにつれ改善が難しくなってくるので、低学年のうちに担任と連携を図り個別に対応を進めて、好き嫌いなく何でもおいしく食べられる児童を育てていきたい。そのためには、家庭の協力も必要なので試食会等で児童の実態を伝えて改善に取り組んでいく。
- ・食事マナーについては、これまで担任や栄養教諭が主導で指導してきたが、来年度は委員会活動を通して児童自らがよい食事マナーを示すことで定着が図れるようにしていきたい。
- ・朝ごはんの食事内容の充実については、保護者の協力が不可欠なので、これからも試食会や料理教室、食育通信での啓発に努めるとともに、生活リズムとの関連が深いことから養護教諭と連携を図り取組を進めていきたい。